

特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

(法第12条、法施行規則第56条)
[PCT36条及びPCT規則70]

REC'D 19 JAN 2006
WIPO PCT

出願人又は代理人 の書類記号 PC-9101	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/014437	国際出願日 (日.月.年) 24.09.2004	優先日 (日.月.年) 25.09.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. H04S7/00(2006.01), H04R1/40(2006.01), H04R5/02(2006.01), H04S1/00(2006.01)		
出願人 (氏名又は名称) ヤマハ株式会社		

1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。

3. この報告には次の附属物件も添付されている。

a. 附属書類は全部で _____ ページである。

指定されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）

第I欄4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙

b. 電子媒体は全部で _____ (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、電子形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。
(実施細則第802号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

第I欄 国際予備審査報告の基礎
 第II欄 優先権
 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
 第IV欄 発明の単一性の欠如
 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 第VI欄 ある種の引用文献
 第VII欄 国際出願の不備
 第VIII欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 24.09.2004	国際予備審査報告を作成した日 06.01.2006
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 志摩 兆一郎 電話番号 03-3581-1101 内線 3541
	5Z 8733

第I欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

出願時の言語による国際出願
 出願時の言語から次の目的のための言語である _____ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文
 國際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))
 國際公開 (PCT規則12.4(a))
 國際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条 (PCT14条) の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

出願時の国際出願書類

明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第 _____ 項*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. 補正により、下記の書類が削除された。

<input type="checkbox"/> 明細書	第 _____	ページ
<input type="checkbox"/> 請求の範囲	第 _____	項
<input type="checkbox"/> 図面	第 _____	ページ/図
<input type="checkbox"/> 配列表 (具体的に記載すること)	_____	
<input type="checkbox"/> 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること)	_____	

4. この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

<input type="checkbox"/> 明細書	第 _____	ページ
<input type="checkbox"/> 請求の範囲	第 _____	項
<input type="checkbox"/> 図面	第 _____	ページ/図
<input type="checkbox"/> 配列表 (具体的に記載すること)	_____	
<input type="checkbox"/> 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること)	_____	

* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1-4	有
	請求の範囲 _____	無
進歩性 (IS)	請求の範囲 _____	有
	請求の範囲 1-4	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 1-4	有
	請求の範囲 _____	無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

引用文献1 JP 6-178379 A (ソニー株式会社) 1994.12.10

引用文献2 JP 2000-36993 A (日本電気株式会社) 2000.02.02

引用文献1には、

指向性の鋭いスピーカから放射した音声を視聴者の後方の音響反射板で反射させて、後方にリアスピーカを配置したのと同じ効果を持つサラウンド方式ステレオ再生装置において、スピーカとして映像表示部の左右に第1のスピーカを配置し、その近傍に指向性の鋭い第2のスピーカを配置し、この第2のスピーカからの音声により第1のスピーカの音声を補いサラウンド効果を得られるようにしたもの
が記載されている。

引用文献2には、

パラメトリックアレースピーカを用いた超指向性スピーカにおいて、第1の音響振動を放射する第1のスピーカと第2の音響振動を放射する第2のスピーカを備え、第1の音響振動と第2の音響振動が重なり合う音場において、これらが逆位相の場合には第1第2の音響振動が相殺され、同位相の場合には強調されることから、第1の音響振動の位相を制御し変化させることにより、特定空間のみ音圧レベルを調整できることにすること
が記載されている。

本願請求項1～4にかかる発明は、視聴位置において、第1の音声と第2の音声が逆位相となり、該第2の音声により第1のスピーカの指向性を補正するのに対し、

引用文献1は、単に音声を補うだけで指向性は補正しない点で異なり、それ以外の点では本願請求項1～4にかかる発明と引用文献1は一致している。

しかし、第2のスピーカの出力を逆位相として第1のスピーカの指向性を補正することことは引用文献2に記載されている。(なお、特定空間のみ音圧レベルを調整することは指向性を補正することに相当する。)

したがって、本願請求項1～4にかかる発明は、引用文献1に記載された発明に、引用文献2に記載の発明を組み合わせれば発明できるものである。